

---

# 俺の彼女が義妹（いもうと）に

鷹崎 弘

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の彼女が義妹いもつとに

### 【Nコード】

N5652Z

### 【作者名】

鷹崎 弘

### 【あらすじ】

ある日、俺の父さんが再婚相手連れってきた。

その再婚相手も子持ちだったらしいのだが……その子供は俺の彼女だった!!

そして、籍を入れると同時に新婚旅行に行った、とんでもない考えの父さんと新しい母さん。

そうになると必然的に俺と彼女？義妹？は同居？同棲？することに。

これは幸運なのか？  
それとも不運なのか！？

## 第一話

俺の名前は葵遥<sup>あおいほるか</sup>。高校一年生だ。  
こんな女っぽい名前ではあるが、れっきとした男である。  
だけど、顔つきは少し女性よりだったのが困ったことなんだ。  
まあ、そうは言っても、俺は男。いくら女性よりだったとしても、  
実際に女性の隣に立てば俺が男であるあることは一目瞭然。  
その程度だ。

しかし、今もそうであるのだが、小さい頃はよくこのことだから  
かわれた。

おかげで何度ケンカしたことやら……  
本当に腹立たしいガキ共だった。

おっと、こんな愚痴どうでもよかったな！

本題に入りたいのだが、その前に言わなければならぬことがある。  
る。

聞いてくれ。

俺には

彼女がいる！！

…いや、その自慢じゃあないですよ。  
まあ、確かに可愛い彼女なんだけど……

待ってくれ！！

怒らずに聞いてくれ！  
惚気じゃあないんだ。

少し彼女との馴れ初めを話そうと思う。

俺が彼女と出会ったのは、今からちょうど半年前。八月中旬のことだ。

俺はその時、軽い交通事故にあった。

片足の一本の骨が折れただけ。不幸中の幸いだった。

俺は、「せつかくの夏休みが」とか「遊びてえ」とか思っていたのだが、そんな時に彼女に出会った。

出会いは病気の屋上。

たまたま気分転換に面倒くさいながらも松葉杖をつけて登っていた。

彼女はそこで静かに外を眺めていた。

初めは俺も彼女も堅かったのだが徐々に打ち解け、仲良くなった。そして、俺の退院直前に俺は彼女に告白した。

そして、付き合い始めた。

以上が、超簡略化した俺と彼女との馴れ初めだ。

「るか、遙」

俺が彼女との馴れ初めを思い出していると、隣で父さんが俺を呼

んでいた。

「遙。どうした？ ぼーっとして」

「なんでもないよ、父さん」

「そ、そうか？ なら、紹介しよう」

父さんはほんの五分前。家に客を二人招いた。

一人は二十代後半くらいに見える女性。もう一人は、その女性の歳の離れた妹のように見える少女だった。

「向かって右手に座っているのが日向井彩さん。隣に座っているのが娘の日向井明日香ちゃん。彩さんの娘だ」

えっ！！？

母親！？

ウソツ！？

と一瞬思ったが、そんなことはすぐに頭から消えた。

なぜなら俺にはもっと驚かされていることがあるのだから。

「よろしくね、遙くん」

「……………」

「それでだ。父さんな、彩さんと結婚しようと思っているんだ」

それは、明日香は、日向井明日香は俺の彼女なんだっ！！！！！！

数秒たってようやく俺は正気に戻れた。

「父さん…ごめん、もう一回言ってもらえない？」

「あ、ああ、彩さんと結婚しようと思ってるって言ったんだ。すまん。今まで黙っていて」

父さんの結婚…再婚は別にいい。

母さんと離婚したのだって、もう三年も前のことだし、離婚するようになった原因も母さんの不倫だったのだから。

だけど、なんでこの人と…いや、なんでこの少女の母親と…

「彩さんとはな、半年前に…そう、遥が入院した時に病院で出会ったんだ」

父さん、俺と考え方が同じだよ…！

「そのな、もし遥がいつって言うてくれるのなら、父さんはすぐにも彩さんと籍を入れようと思ってる。明日香ちゃんは今から了承してくれていたらいいからさ」

明日香が承諾！？

そうか、明日香は承諾したのか…

…その割りにはさっきから黙って俯いてるな。

なんでだろ？

けど、まあ、俺も父さんには幸せになってほしいからな。

「わかった。おめでとう、父さん」

「ありがとう…遥」

父さんはそう言いながら涙を流していた。  
俺は心の底から良かったな、と思っていた。  
そして、父さんは涙を拭き終えてから、少し涙声で話を再開した。

「じゃあ、父さんと彩さんは婚姻届を役所に出してから、そのまま一ヶ月ほど新婚旅行に行ってくるから」

.....

「なにー！！ どういうことだよ！ なんでいきなり新婚旅行なんだよ!?」

「仕方ないんだ。仕事の都合上、今しかないんだよ」

そういえば、十月以降の父さんが異様に働いていたのはこのためか！

なら、いつ彩さんとやらとデートとかしたんだろ？

...と、今はそんなことどうでもいい。

そこで父さんは俺の思考をぶっ飛ばして言った。

「じゃあ、行ってくる。二人仲良くな」

「ごめんね、遥くん。明日香のことをお願いね。明日香も義兄妹きょうだいで仲良くな」

..... 義兄妹きょうだい??

そうだったー！！

なんか父さんの為にと再婚を認めただけ、それって

俺の彼女が義妹いまいとになるってことじゃねえーかつ！！？

## 第二話

父さん達は本当に新婚旅行に行ってしまった。  
まるで俺の承諾なんて形だけのよう……

いや、別にいいんだけど……これから約一ヶ月、明日香と二人きり。

……どうしよう？

そんな心の準備できてないんですけど……

まあ、まずは何か話そうと思い、俺は明日香と向かいあった。

明日香は俺より一つ年下の中学三年生。

一つ年下と言っても、俺は早生まれの三月生まれ。明日香は同じ年の五月生まれ。実際には二ヶ月しか生まれた月日の差は無い。

彼女は綺麗で大きな水色の瞳と金髪の長いストレートの髪が特徴的である。

確か、ハーフだと前に言っていた。彩さんの方は茶髪で、日本人の様だったので、たぶん父親が外国人なのだろう。

身体はすらっと長く、細身の美少女、と言うところかな。

この歳で胸の発育がよすぎるのもどうかと思うのだが……

おっと、また話が脱線したな。

じゃあ、明日香に話し掛けますか。

「や、やあ。四日ぶり、かな？」

「あ、うん。四日ぶり」

「……………」

「……………」

「ヤバイ!!」

「会話が續かない。」

「普段なら馬鹿げた話で盛り上げることもできるけど、このタイミングでそれはないだろう。」

「俺は苦し紛れにどうにか会話を続けようとする。」

「え、えつと、明日香は、父さん達の結婚認めてたって言ってたけど、知ってたの？」

「んと、結婚するのは知ってたけど、ハルくんのお父さんってことまでは知らなかったよ」

「ちなみにハルくんとは俺のことである。」

「じゃあ、その、彩さんが誰と結婚するかも分からないで、認めたの？」

「うん。だってさお母さんだって、女なんだよ。恋愛もしたいだろうし、私が独り立ちした時、独身だったらお母さんが淋しいでしょ」

「……………彼女が義妹になる、って驚いていた俺が恥ずかしくなっちゃったまう。」

「け、けど、ハルくんと二人暮らしは、は、恥ずかしいよお」

そう言って明日香は顔を赤らめた。

………義妹と結婚って大丈夫かな???

「どうしたの、ハルくん？」

「いや、なんでもないぞ。なんでもない、よな？」

「？ 変なハルくんだね」

明日香は可愛らしく上品に笑いながら言った。

…これは俺が緊張しているせいなのか？

明日香がいつも以上に可愛く見える。

ふと、時間を見る。

時計の針はすでに夜の十時を過ぎていた。

…父さん、こんな時間に役所は開いてないと思うよ……

じゃなくて、先に明日香に家の中を簡単に見せてから今日は寝よう。

頭の整理が必要だ。

なぜか今日は話がよく脱線するな。

俺は時計から目を離し、再び明日香の方へと向いた。

そして、振り向くと目の前には先程よりもさらに近い位置で明日香がいた。

「どうしたの??」

そう、彼女は上目遣いで俺に問い掛けてきた。

「えっ、あつと、まずはな家の中を見せるよ。それから今日はもう寝よ」

俺がそう言うと、明日香は上目遣いのまま人差し指をぴん、と俺の鼻に当たるかどうかの位置に立たせた。

「お風呂。お風呂忘れてるんだからね!!」

…父さん、どうしよう…

過ちを犯してしまうかも……

「ハルくん聞いている?」

「あ、ああ。分かった。でも、まずは家の中を見せるよ」

それから二十分。

なんだかんだで色々説明していたら、時間が掛かった。

明日香は風呂に入っている。

俺はもう、寝るだけだ。

……

……

……

寝れるか、バカヤロー……!!!!!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5652z/>

---

俺の彼女が義妹（いもうと）に

2011年12月19日02時47分発行